県南家畜市場通信

令和６年６月号

今年こそは失敗しない

草地の夏枯(なつが)れ対策について

今年の6～8月の平均気温は、平年より「高い」見込み（気象庁）のため、
昨年同様、猛暑日が続くことを想定して、対応していく必要があります。
今号は、「草地の夏枯れ対策」のポイントについて紹介します。
草地の生産力を維持するため、今年こそは夏枯れを防ぎましょう！

夏枯れ対策は3点

①厳しい暑さのときは刈らない
▶ 2番草は7月中旬までに刈る

②高刈りする ▶ 2番草は高めに刈る

③暑さに強い牧草に変更 ▶ 耐暑性(たいしょせい)がある草種・品種を選定

①厳しい暑さのときは刈らない

○2番草刈取りは6月下旬～7月中旬に行いましょう

暑さが続く時は、
刈取り延期も視野に

昨年は7月中旬から9月上旬まで最高気温30℃超えの日が続きました。
カンカン照りが続く時に刈ると、牧草の再生不良につながるので、
数日以内に雨が降りそうなタイミングを見計らって刈りましょう。
梅雨時で刈取りできるチャンスが限られますが、早めに機械等の準備をして、
いつでも収穫開始できるよう備えましょう（2番草刈取りは1番草の刈取りから40～55日が目安）。
2番草刈取り後の追肥も、肥料焼けを防ぐため、くもりや降雨前後を狙いましょう。

適正な刈高の目安

5～6cmしかない

直射日光が地表を直撃！

▶地温30℃越えが続くと牧草は枯死してしまいます

②高刈りする

○2番草の刈高は、地面から10～15cm　※左下を参照

2番草の収穫は、暑い時期に行うため、刈高の違いがその後の牧草の再生を大きく左右します。低い刈高では、イネ科牧草の再生が悪くなり、夏枯れを引き起こしやすくなります。

ディスクモア、モアコンディショナー等は作業機の取付角度等の調整により若干刈高を変更できますが、純正オプションのスキッドプレート等を装着するのがベストです。所持していない場合は、加工品で対応することも可能ですので、必要に応じて農機具販売店等に相談すると良いでしょう。

草種による耐暑性の違い

強い
↑
・トールフェスク
・リードカナリーグラス
・オーチャードグラス ← オススメ!
↓
・ペレニアルライグラス
弱い
・チモシー　←暑さに弱いため県南地域には不向き

※耐暑性に優れる草種は、一般的に嗜好性が劣る

③暑さに強い牧草に変更

○耐暑性がある草種・品種を選びましょう

夏枯れした草地の生産力を回復させるには、草地更新または追播が必要です。

草地更新や追播は品種変更のチャンス！
耐暑性がある草種・品種を選びましょう。
草種による耐暑性の違いは右図のとおりです。
耐暑性と嗜好性を考えるとオーチャードグラス、中でも今年播種するなら「まきばたろう」をおすすめします。

播種の適期は、9月中旬頃です。

現在、国では、より耐暑性のある品種の改良が進められています。

オーチャードグラス「まきばゆうか」、「きよは」が新しくR7年から市販される予定です。　乞うご期待!!

比較的暑さに強い品種の例

●オーチャードグラス
「まきばたろう」中生

Coming Soon!
R7市販予定
「まきばゆうか」中生
「きよは」早生

●ペレニアルライグラス
※乾草利用は不向き
「夏ごしペレ」

≪子牛を大きく育てよう！≫～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→

○ 哺育牛の暑熱対策

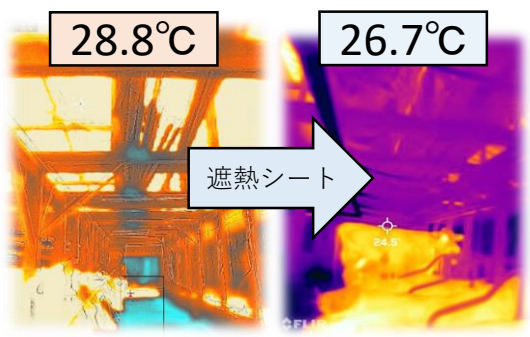
哺育牛は体温調整の機能が未熟なため、暑熱対策がより重要となります。暑い日が続くと(25℃を超えると影響が出始めます)体温の上昇や呼吸数の増加から、食欲減退・体力の消耗に繋がり、発育停滞や疾病、最悪の場合死に至る事もあります。

また、暑熱は当然母牛にも影響し、乳質が不安定になる事で哺育牛の白痢の原因にもなります。

近年の猛暑に負けないよう、今から対策して立派な子牛を育てましょう！

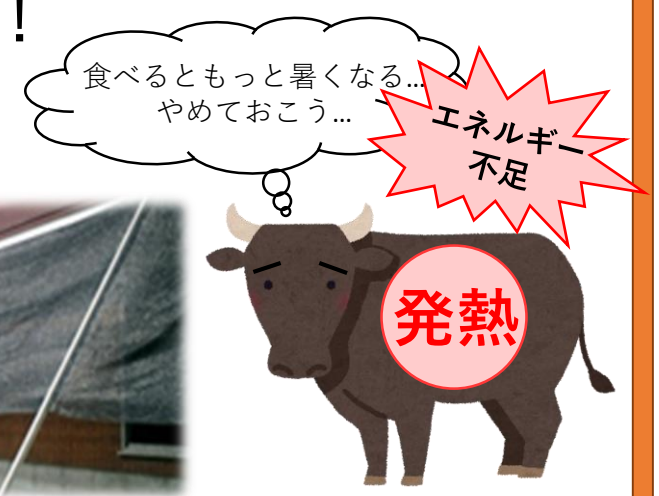
【暑熱対策のポイント】

- □ 通風を行う(夜間も継続！)
- □ 屋根からの輻射熱を防ぐ
- □ 直射日光を防ぐ
- □ 常に清潔な水を与える
- □ 給餌・哺乳回数を増やす
- □ 粗飼料は5cm以下に細断する



屋根裏への遮熱シート施工で表面温度の上昇を抑制

寒冷紗による日除け



ルーメンは大きな発酵槽
エサの分解時に発熱します

お問い合わせは　>>　奥州農業改良普及センター　0197 35 8451
一関農業改良普及センター　0191 52 4961